

「五葉山の魅力」

五葉山自然倶楽部
創立10周年に寄せて

⑰

前日から気になってい
た「親子五葉山登山」の
天気。上有住小学校の五
六年生とその保護者が参
加する。当日は夜明け前
からポツリポツリとわず
かな雨。

延期の場合は朝六時か
ら六時三十分の間に、小
学校区内の五地区の育成
会長に連絡をすることに
していた。テレビの伝え
る天気予報は「二時雨
のち晴れ」。東北地方に
は「晴れマーク」がきれ
いに並んでいる。

五葉山登山の案内をし
ていただく紺野忠さん、
中嶋敬治さんに電話し、
相談した結果は「登山実
施」。上有住小学校の五
六年生、保護者、先生、
育成部員の総勢百三人は
午前七時三十分、学校を
出発。上有住側からの登
山である。

午前九時、五葉山麓に
ある休憩施設であるあす
なる山荘前で中嶋敬治さ
んによる「五葉山の魅力」
の講話。ここからまっす
ぐ稜線を目指して登る檜
山コースを往く。

水飲み場から上はガス
が発生し始めている。も
うすぐ稜線へ出ようとし
ていた時、突然激しい雨
に見舞われた。見る見る
うちに樹木が濡れ、登山
道もたちまちぬかるんで
いく。

雨具をつけ雨が弱まる
のを待った。時計は十時
三十分を指していた。私
たちは今後の進め方、対
応を急いで話し合った。

結論は「前進」。
峰まで近いこと、しゃ
くなげ山荘までは歩きや
すいこと、着替え、雨宿
りは山荘でできること、
あすなる山荘まで引き返
すには疲れがピークにあ
り、ぬかるんだ登山道を
下ることは危険であるこ
とが判断理由だった。

日を受けながら学校で解
散式を終えたのは午後五
時四十分。
中嶋さんを講師に五
六年生の事前学習会、紺
野忠さんの案内による事
前踏査、さらに育成部や
PTA理事会で五回にわ
たる検討、協議。
不安だったから、心配

雨にうたれた親子登山

住田町上有住 高橋 正弘

幸い、歩き始めてまも
なく雨は上がり、なだら
かな稜線部へ出ることに
はガスが消え、視界は良
好だった。

平成年八月二十三
日、早朝と昼の二度にわ
たって確かな判断を迫ら
れた五葉山。原生林を歩
き、日の出岩に登ってか
ら下山。あすなる山荘に
午後四時到着。登山計画
に沿って全員無事登山を
終えることができた。タ

だったから、そして意義
ある登山にしたかったか
ら真剣に、一生懸命に取
り組むことができた。ま
じめさ真剣さが雨の登山
を意味あるものにした。

五年生、六年生の一人
ひとり、登山のこと、
五葉山のこと、頂上での
食事のことなど体感した
ことを書きつづった「五
葉山登山新聞」。四十三
人のみずみずしい感性が
伝わっている。

「五葉山は四つの顔を
見せました。晴れの顔、
雨の顔、曇りの顔、霧の顔。
とても疲れたけれど、と
っても楽しい登山だっ
た」(五年生の男子児童)
「とっても悲しい五葉
山登山だったけど、後で
思うと楽しかったように
思う」(五年生の女子児
童)
六年生の保護者からは
こんな声も。
「朝、目が覚めて空を
見上げた雨。半分不安
な気持ちで登山準備を始
めた。六時三十分までに
電話は来ない。『よし、
決行だ』ということとい
う登山開始。久しぶりの
山登りに挑戦。途中何度
も心臓が高鳴り、いささ
か年齢を感じてしまっ
た。途中強い雨にも打た
れたが、無事山頂にたど
り着く。おにぎりのなん
とおいしかったこと。そ
して自然の何と素晴らし
いこと。この登山を通し
て、目覚め忘れていた大
切なことをたくさん発見
できました。ありがとう
ございました」
私は「平成十年度親子
五葉山登山」(上小五・六
年生)を読み返しながら、
登山計画をつくりあげ
る。あすなる山荘前で下
山者を迎える目には光る
ものがあつた。達成感、
安堵感、感謝の念の表れ
が、この行事にかけた一
生懸命さを物語る。



長い隊列を作りながら頂上を目指す。決して楽で
はなく、労苦と努力を必要とする。「精いっぱい
頑張った」という達成感が心を育てる